

第 127 回番組審議会議事録

(株) 中国コミュニケーションネットワーク

- 開催日時 2025 年 10 月 9 日 (木) 午前 11 時
- 開催場所 中国経済クラブ (中国新聞社 8 階)

- 出席者

- ① 委員側

- ・ 出席委員 5 人
木谷 健 (比治山学園理事長)
牛来 千鶴 (ソアラサービス代表取締役社長)
中川 圭 (乳がん患者友の会きらら理事長)
向井 良 (弁護士)
道面 雅量 (中国新聞社文化担当部長)
- ・ 欠席委員 2 人
中川 元慧 (浄土真宗本願寺派善正寺住職)
吉田 朋子 (和奏光夜実行委員会代表)

- ② 会社側出席者 2 人

社長兼放送局長 小見山 文男
制作担当 渡邊 康美

- 議題

- ・ 開会あいさつ
- ・ 番組試聴「広島みなと夢花火大会特別番組」
- ・ 委員の感想、意見
- ・ 訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告
- ・ 質疑応答、その他

- ◇ 試聴番組「広島みなと夢花火大会特別番組」(2025 年 7 月 26 日放送)

広島港で 7 月 26 日(土)に開催された花火大会の様子を 19 時半～21 時まで放送。
視聴していただくのは、20 時からの花火開催前、第 6 管区海上保安本部の職員が出演し、海上での花火観賞の注意点などを説明する冒頭部分です。パーソナリティーは五反田曜子。

- <番組に対する委員の意見・感想>

- ・ 海上保安本部職員は、話がうまく、場慣れしている。広島弁を交えた注意喚起は、親しみやすく、興味深く聞ける。花火見物の船が広島港に 350 隻も出ていることに驚いた。花火終了後の車の交通規制は、いい情報だ。
- ・ 船舶の人たちがラジオを聴いているのは予想外だった。海上事故防止のための放送はコミュニティー FMらしいと思う。みなと花火の観賞経験があれば、ラ

ジオの音だけでもイメージがわき、十分に楽しめる。

- ・ 船の事故の具体的な事例を上げて注意しているので、理解が深まった。花火海上でなく、マンションで見ている人たちにとって解説付きの放送はありがたい。もっと花火の放送の事前告知に力を入れれば、リスナーは増えるはず。
 - ・ 視覚的な情報をラジオでどう伝えるのか興味があったが、割と臨場感があった。花火の解説がつくと、雲に隠れた月をめぐる、といった日本人的な感覚を連想した。
 - ・ 海保の職員は、タレント性がある。レギュラー番組を持ったらいいくらいだ。事故に遭った際の連絡先として118番を強調していたのは良かった。意外に知られていない情報提供することに、ラジオの価値を再認識させられた。ラジオの花火の実況放送は、目の不自由な人にとっての花火を考えるきっかけになり、新しい花火の楽しみ方の提案でもある。
- ◇ 訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告
- ・ 訂正やリスナーから番組に関する苦情はありませんでした。
 - ・ 国土交通省太田川事務所による「高瀬堰(たかせぜき)の放水」の緊急割込み放送が、8月11日(月)午前9時過ぎにありました。

以上